

紀子さん、待っています

千葉県・四九・会社員

大江光成

故郷、恵山から函館へと紅葉の彩りが鮮かでしょうね。朝夕の冷込みが厳しくなり
ましたね。寒さに弱い貴女は、無理して風邪などひかれてないかと案じられます。

案の定、看病疲れか自身が寝込んでいると聞いた時は本当に心配しましたよ。

しかし、もう大丈夫。北の環境にも慣れ、ここ数日は付き添われているのですね。

父の入院手術で付き添い看護のため帰省して、早やふた月が経過。再手術が一〇日後
に予定され、自身の通院のため一時帰るとの電話を受けたのは七日前でした。一口に
ふた月とは言え私には半年、いいえ一年にも感じられました。数日前までは貴女のい
ない部屋でスタンドの灯りが窓硝子に映る紀子さんの面影を幾度見たことでしょう。

淋しさと愛しさが募るだけで心も沈みがちでした。通勤列車から東の間の夕焼けと、
乗合バスからは養老川の河川敷一面に咲き乱れるコスモスを見ながら家路へと急ぐ足
取りは軽い。昨夜の電話では、「明日夜八時過ぎには帰れます。あなたのお土産もあ

りますからね、お楽しみに」と。

紀子さんの留守中、早朝娘の弁当作りから洗濯、週末には部屋掃除と家の周りの除
草、地区懇談会や学校PTA行事への参加もあり、多忙な毎日を送っています。

小さな家だけど、庭の片隅に一坪の花壇がある。先月末に除草後久しぶりに土いじ
りをしました。チューリップの球根を植え、花壇周りのパンジーには黄色、紅、白、
紫など数種の花びらがそよ風で微かに揺れています。

今年もシャコバサボテンに赤紫の花がいつせいに咲いています。きっと心優しい紀
子さんを温かく迎えてくれることでしょう。

そして、明日の献立は貴女の大好きなクリームシチューと、カボチャ、里イモの煮
付です。今度は鍋をこがさないように上手に作りますから心配無用です。心をこめて
作りますからね。テーブルの一輪挿しには紅いバラを添えて。

お帰り、愛する紀子さん。

*実父の入院手術の付添看護のため里帰りの妻、自身病弱でもあり通院と薬を欠くことのない
現状。二ヵ月ぶりに、三日間ですが帰って来ます。